

終わりに

カイエスが創立したPNRはその後、メキシコ革命党（PRM、1938）、革命制度党（PRI、1946）と名前を変えて今日に至っている。メキシコの三大政党はPRIのほか、1939年、マヌエル・ゴメス・モリンによって創設された国民行動党（PAN）、そして1989年、ラサロ・カルデナスの息子クオウテモク・カルデナスがPRIからスピニアウトして結成した革命民主党（PRD）で、三つのうち二つが今でも党名に革命の文字を使用している。

PRIは1929年の創設から2000年までの七十一年間政権の座にあったが、PANのピセンテ・フォックス大統領に政権を渡した。2006年の選挙ではPANのフェリペ・カルデロンがPRD候補アンドゥレス・マヌエル・ロペス・オブラドールを小差で破り、PANは二期連続して大統領の座を確保した。ロペス・オブラドールは開票結果を認めず、自らを大統領と宣言し、支持者を動員して大規模な集会を数度に亘って開催した様子は、革命未だ終焉せずの感があった。

メキシコが抱えている問題はとてつもなく大きい。麻薬を扱う組織犯罪グループをめぐる政治の腐敗や治安悪化も然ることながら、最も急を要する問題はエネルギーと不法移民問題である。

2007年の春、メキシコの国有石油会社PEMEXの危機的状態が相次いで報道された。2005年には世界第五位であった石油生産量がピークを過ぎ、この年の一月、アメリカへの輸出量が前年に比べ十六%も減少した。次に、1995年、メキシコは世界第七位の確認埋蔵量を誇っていたものが十五位まで転落した。しかも現在の生産レベルを継続すればあと九年ほどで資源は枯渇すると2007年3月23日、ラ・ホルナダが報じた。ペメックスは五百三十億ドルの借金を抱え、資金不足から新しい油井の開発を長年怠ってきた。ガルフの深海部に数百億バレルの巨大な油床があることを知りながら、それを汲み上げる技術がない。老朽化した井戸は発生するガスを取り込む設備がなく、貴重な資源を燃やし続けている。

1938年、カルデナス大統領が国有化して以来ペメックスはメキシコ政府の貴重な財源となってきた。2006年の売上額九百七十億ドル、その中から政府に支払った額はじつに七百九十億ドル、国家予算の四十%に相当する。ペメックスは新規油田の開発のみならず、精製施設、パイプラインその他のインフラの保守整備を怠り、事故の多発と環境破壊が進み、ガソリン消費量の40%をアメリカからの輸入で補っているのが現状である。メキシコは石油産業への外国資本導入を憲法により禁止してきた。最近行われた国民の意識調査によれば、67%が外国資本受け入れに反対である。現状打開のためにはペメックスの民営化が前提条件であるが、フェリペ・カルデロン大統領は憲法改正を必要とする民営

化政策を前面に出すまでに至っていない。

メキシコが直面している最大の問題はアメリカへの不法移民である。ピセンテ・フォックス大統領任期中の六年間、三百四十五万人、年間平均五十五万人がアメリカに不法入国した。現在アメリカに住むメキシコ人は千百から千二百万人、そのうち不法滞在者は六百万人と言われている。ちなみにメキシコの統計局の発表によれば、2000年からの五年間、アメリカへ流出した人口は年間平均五十七万七千人、それに対し死亡した人の数は年間四十九万五千人であり、流出した移民の数が死亡者数を上回っている。そのため二千四百四十五ある村落の四分の一で人口の減少が報告されている。

メキシコはアメリカへ密入国する移民を英雄と称え、彼らを国家的悲劇と捉えることはなかった。彼らが家族へ送金する金額は年間二十%で伸び続け、2000年の六十六億ドルから2006年には二百四十億ドルに達した。しかし、2007年になりメキシコ移民は故郷への送金をあまりしなくなった。このままの状況が続くと送金額の伸び率は僅か二%に止まると見られている。不法移民を取り巻く環境は年々厳しさを増してきた。彼等の多くを吸収してきた建築業界が住宅販売の不振により雇用を減らし、不法労働者に労力を依存している食肉業界や農業経営者に対し政府の締め付けが厳しくなった。嘗ては不法入国が殆ど自由に行われていたが、年々国境警備隊が増強され、クリスマスの時期には毎年大挙して帰省していたメキシコ人は帰るのをあきらめた。そのため最近の密入国者には女子供が多く見られるようになった。密入国のルートは段々と厳しいところに追いやられ、現在多く使われているのはソノラからアリゾナの砂漠地帯を歩いて侵入する危険なもので、毎年五百人前後の密入国者が命を落としている。

ブッシュ大統領は不法移民を一旦帰国させ、一定期間働けるゲスト・ワーカーのヴィザを発給する移民法改正案を議会に提出したが、犯罪者に恩赦を与えるものとして反対され、法案成立の見込みはない。その間、共和党支持者の間で反移民感情が高まりを見せ、アメリカ生まれの不法移民の子女までも国外へ追放せよとの声すら聞かれるようになった。メキシコ政府がやるべきことは、国民が国内で飢えずに生活できる環境を整えることであるが、果たして出来るであろうか。友好国メキシコの明るい未来を願ってやまない。